詩枕名寄

下

静嘉堂文庫本

福田秀一
杉山重行
千艘秋男
編

古典文庫

福田秀一
杉山重行
千艘秋男
編

詩格名寄

下

静嘉堂文庫本

古典文庫

古典文庫第六〇一冊

平成八年十二月二十日印刷発行　　非売品

下寄名枕詞

静嘉堂文庫本

編者　福田秀一
　　杉山重行
　　千艘秋男

発行者　吉田幸一

印刷者　共立印刷株式会社

製本者　(有)武蔵製本

発行所　114
東京都北区西ヶ原三ノ三四ノ一二
電話〇三(三九一〇)二七一七
振替口座〇〇一九〇一九一〇〇一四五九七番
古典文庫

© KOTEN BUNKO 1996. Printed in Japan

目次

謌枕名寄卷第十三……三
謌枕名寄卷第十四……六二
謌枕名寄卷第十五……一一四
謌枕名寄卷第十六……一五〇
謌枕名寄卷第二十二……一九一
謌枕名寄卷第二十三……二四四
謌枕名寄卷第二十四……二八八
謌枕名寄卷第三十四……三〇〇
謌枕名寄卷第三十六……三三四
解題……福田　秀一……三六五
歌枕索引……三七五

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo

謌枕名寄卷第十三

畿内部十三　　攝津國一

難波篇

海　瀛（澳）　江（副入江　堀江）　浦（副江浦）　滷

崎（付並濱）　津　湊　渡　道　里

都　宮（又云忍照宮　付濱）　寺（副亀井）

並

一御津　又云大伴御津

濱　浦　崎　湊　泊　松原

堀江　寺

└一ウ

二 高志　濱　八雲御抄云 通和泉云、仍彼國又載之畢　浦　和泉載之

三 高津　海　宮

四 長柄　國史云 嵯峨天皇御宇　弘仁十三年造
長柄橋ム、
或傳云 行基菩薩造長柄橋時代相違
如何　以下見在別帋

橋　付橋下寺　濱　浦　道

五 田蓑嶋　寛平御時菊合名所第五番

六 葦屋　里　海　灘洋田

七 兒屋　渡　松原　池　猪名篇載之

八 葦間池　九 小松崎

└二オ

十 津冨羅江　顯昭哥詠奈波乃津冨羅江而
万葉赤人哥縄浦以彼浦在。此江
歟但現在難波邊然者　縄浦者
只是難波浦歟可詳　」二ウ

十一 澪漂　施津串貫之土佐記云ミヲツクシヨリ　出テナニハヲ
スキテ河シリニ入ム、
或云安法々師家集名所詠之ム、
或云忠見家集在之ム、可檢之

十二 直越　多田也

［約三行分余白］　」三オ

詞

難波篇

一七三七 万葉八 難波邊に人のゆけれはをくれゐて
わかなつむこそ　見るしかなしき　（三五一七）

一七三八 同四 押照難波の菅之根毛許呂爾　坂上郎女　（三五一八）

一七三九　菅笠　臨照難波菅笠置古之（オシテルヤ ナニハ スカ カサ ヲキフルシ）

のちはたかきむ　かさならなくに　（三五一九）

一七四〇　万廿　うなはらのかしこき見つゝあしかちる

葦　なにはにとしは　へぬへくおもほゆ　中納言家持　（三五二〇）」三ウ

一七四一　古今十一　つのくにのなにはのあしのめもはるに

同　しけきわかこひ人しるらめや　紀貫之　（三五二一）

一七四二　後撰十三　人ことのたのみかたさはなにはなる

あしのうらはの　うらみつへしや　（三五二二）

一七四三　新勅七　寛喜元年女御入内御屏風　千世ふへき　なにはのあしのよをかさね

しものふりはの　つるのけ衣　西園寺入道前

一七四四　拾十四　なには人あしひたくやはすゝたれて

をのかつまこそ　とこめつらなれ　大政大臣（三五二三）

一七四五　新古十　法性寺関白家哥合　なには人あしひたくやにやとかりて

そゝろにそてのしほたるゝかな　讀人不知　（三五二四）

皇大（ママ）后宮大夫

俊成（三五二五）」四オ

一七四六 續拾五 うらかせや　なをさむからしなには人

あしひたくやに　衣うつなり

一七四七 續古六 正治百、 難波人あしひたくやに　ふるゆきの

うつみのこすは　煙なりけり

一七四八 新古十七 なにはめか　衣ほすとて　かりてたく

あしひのけふりたゝぬ日そなき

一七四九 千十一 なには人　すくもたく火のしたこかれ

うへはつれなき　わか身なりけり

一七五〇 後十一 つのくにのなにはたゝまくおしみこそ

すくもたく火の　したにこかるれ

一七五一 生田森 詠合 秋はけさ　いくたのもりのすきぬらむ

なにはのあしに風をのこして

一七五二 續拾一 浦とをき　なにはの春のゆふなきに

いり日かすめる　あはち嶋山

權僧正實伊　（三五二六）

守覺法親王　（三五二七）

紀貫之　（三五二八）

藤原清輔朝臣（三五二九）

紀内親王　（三五三〇）

慈鎮和尚　（三五三七）

中務卿親王 宗尊　（三五三二）

└四ウ

一七五三 同三 うつもれぬ　これやなにはの　たまかしは
もにあらはれて　とふほたるかな　如願法師　（三五三三）

一七五四 新古四 八月十五夜和哥所哥合 わすれしななにはの秋のよはのそら
ことうらにすむ　月はみるとも　宜秋門院丹後（三五三四）

一七五五 同六 つのくにの　なにはの春はゆめなれや
あしのかれはに　風わたるなり　西行法師　（三五三五）　」五オ

一七五六 續拾七 なにはめか　あしのまろやもいつくそと
たつぬはかりに　ふれる白雪　前齋宮河内　［三五六五］

一七五七 万四 わかきぬを人になきせそあひきする
難波壯士の　てにはふるとも　（三五三六）

一七五八 日本紀十一 なには人　すゝふねとらせ　こしなつみ
そのふねとらせ　おほみふねとれ　（三五三八）

右一首仁德天皇御時皇后遊行紀伊國天皇
幸大津待皇后之　舩時　御製

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo

一七五九 後拾廿 つのくにのなにはのことか　のりならぬ　」五ウ

あそひたはふれまてとこそきけ

遊女宮木　（三五三九）

一七六〇 續後十六 堀川院百首 つなてひく　なたのをふねや入ぬらむ

なにはのたつの　浦わたりする

中納言國信　（三五四〇）

一七六一 万八 續古十 をしてるや　なにはをすきてうちなひく

くさかの山を　くれにわれこゆ

讀人不知　（三五四一）

一七六二 古十四 つのくにの　なにはおもはす　山しろの

とはにあひ見む　ことをのみこそ

同　（三五四二）

一七六三 拾十五 人をとく　あくたかはてふ　つのくにの

なにはたかはぬ　ものにそありける

承香殿中納言（三五四三）

右　元良のみこのたえてのちつかはしけると　」六オ

一七六四 良玉集 かせふけは　いけのふちなみまつならて

なにはのきにも　さきかゝりけり

（三五四四）

右一首天王寺にまうてけるに藤花松ならぬ

木ともにさきかゝりたりけるを見てよ
めるとなん

難波
海

一七六五　直越（カヘタヽ）乃　此（コノミチ）徑にして　をしてるや
なにはのうみと　なつけゝらしも　（三五四五）

同廿　右越草香山時神社忌十老（ママ）麿作哥

一七六六　さくら花　いまさかりなりなにはのうみ
をしてる宮に　きこしめすなへ　中納言家持　（三五四六）

右述私拙抵（ママ）哥

難波
瀛

一七六七　むかしよりあはれを見する　つのくにの
なにはのおきの　はるのあけほの　俊成卿女　（三五四七）

一七六八 万十六ヲシテル 江

忍照八難波乃小江爾(ヲエニ)廬作(イホツクリカタ)難
麻理居(マリキタルアシ)葦何爾乎(カニヲ)王召(ヲホキミメスト)跡何爲(ナニセム)牟
吾乎召(ワレヲメス)良米(ラメ)。

」セオ

(三五四八)

右哥爲蟹述痛作之

一七六九 拾九 なにはえのあしのはなけのましれるは
つのくにかひのこまにやあるらん

右哥二條のおほいまうちきみの家の繪に
白馬引所

惠慶法師

(三五四九)

一七七〇 一字抄 なにはえのあしもまこも、しらすけの
つのくむほとは えこそ見わかね

中納言匡房

(三五五〇)

一七七一 新古一 ゆふつくよ しほみちくらし なにはえの
あしのわかはに こゆる白波

藤原秀能

(三五五一)

一七七二 堀川院百首 つのくめる あしのわかはを はむこまの

」セウ

ある丶はみるや　なにはえの人　　權大納言公實（三五五一）

一七七三　後拾一　花ならておらまほしきは　なにはえの

あしのわかはに　ふれる白雪　　藤原教仲朝臣（三五五三）

一七七四　續古一　なにはえの　しほひのかたやかすむらむ

あしまにとをき　あまのいさりひ　　順德院御製　（三五五四）

一七七五　續拾七　建保二年内裏哥合　なにはえや　かすみのしたの身をつくし

はるのしるしや　見えてくちなむ　　家隆卿　（三五五五）

一七七六　堀百首　なにはえのくさはにすたくほたるをは

あしまのふねのかゝりとや見ん　　大納言公實　（三五五六）

一七七七　續古六　なにはえやよるみつしほのほと見えて

あしのかれはに　のこるあさしも　　後鳥羽院御哥（三五五七）

一七七八　詞九　難波えのしけきあしまをこく舩の

さほのをとにそ　ゆくかたをしる　　大藏卿行宗　（三五五八）

右一首　崇德院御時御前にて

水草隠船云事を

一七七九 金八 千十一 堀川百首 なにはえの　もにうつもるゝ　玉かしは
あらはれてたに　人をこひはや　俊頼朝臣　（三五五九）

一七八〇 續後十二 なにはえのあしかりをふね　ゆきかへり
うきにこかれて　よをやつくさむ　衣笠前内大臣（三五六二）」ハウ

一七八一 同九 なにはえに人のねかひを　みつしほは
にしをさしてそ　ちきりをきける　大僧正慈鎮　（ナシ）

右　天王寺にまうて、よめると　なん

一七八二 なにはえの　あしのしのやも　雪ふれは
花のみやこに　おとらさりけり　（三五六六）

一七八三 なにはえのあしまにやとる　月見れは
わか身ひとりは　しつまさりけり　左京大夫顕輔（三五六七）

一七八四 なつかりのあしふみわくる　なにはえの
さみたれなから　ぬる、袖かな　權中納言経通（三五六八）

難波

入江

一七八五 続後十六 水まさる　なには入えのさみたれに　あしへをさして　かよふ舩人　平長時　（三五六九）

一七八六 千六百首 なにはかた入えをめくるあしかもの　たまものふね(も)に　うきねすらしも　崇徳院御哥　（三五七〇）

一七八七 現六帖 なにはかた　入えかくれに　むらねして　ころなみたつる　かもそなくなる　吉野尼　（三五七一）

堀江　河

一七八八 万十二 いもかめを　見まくほりえの小浪（サヽラナミ）　（三五七二）

一七八九 同七 さよふけて　ほりえこくなる松浦舩　しきてこひつゝ　ありとつけこせ

一七九〇 同十二 続古十八（ミタルホリエ） 松浦舩　亂穿江（ミヲ）の　水尾（ハヤ）早み　梶音たかし　水尾はやみかも　（三五七三）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo